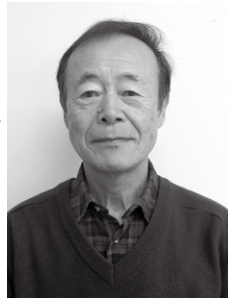


和田地区民生委員・児童委員会会長ご挨拶



会長 川窪 茂

昨年12月の一斉改選から3ヶ月が過ぎ新しく任命された我々9名の民生児童委員は、高齢者や子供たちが安心して暮らせるように地域の皆さんと行政とのつなぎ役として日々取り組んでいます。

今、和田では3人に一人が65才以上の高齢者です。一人暮らしの方も約90名と年々高齢化が進んでいることは和田に限ったことでもありませんが、これから5年後、10年後はどのようなことになるのだろうかと考えてしまいます。

民生児童委員の活動として見守りが必要な高齢者宅への訪問があります。心配事や体調の不安についての



新しい民生委員・児童委員の皆さん (任期: 令和7年12月~令和10年11月)

相談を聞いたり世間話をしながら皆さんの関係づくりに心がけています。一人暮らしの方は普段家に閉じこもりがちになり人と話をする機会が少ないものです。こんな時は時間をかけてゆっくり話を聞くことも珍しくありません。やっぱり住み慣れた和田で暮らし続けたいと願う気持ちは皆さん同じです。これから3年間、皆さんの身近な相談相手、見守り役として寄り添っていきますので、お気軽に声をかけてください。

和田の世帯数・人口

世帯数	1,516戸
人口	3,998人
男	1,933人
女	2,065人

令和8年3月1日現在

2/15

2026冬季オリンピック大会のような白熱した試合展開! 『Team町会』で親睦を深める

和田地区健康スポーツのつどい冬季大会開催

まるで春本番のような陽気の下『第3回健康スポーツのつどい冬季大会』が開催されました。お子さんから人生の大先輩まで多くの皆さんが参加、『ポッチャ』で熱戦を繰り広げました。選手が投げるボールの行方に歓声! ミラノ・コルティナで開催されている冬季オリンピック大会のような熱気溢れる中、各町会が『Team町会』で一丸となり親睦を深め、楽しいひと時を過ごすことができました。皆さんお疲れ様でした。



ジャックボール (白) に赤・青ボールが集中 審判も判定に苦戦!??



3面のコートで対戦! 町会の選手に熱い声援!



準備体操で心身の緊張をほぐしポッチャで『いざ勝負!』

【競技結果】

- 冬季大会 ポッチャ
- 優勝: 和田町町会
- 準優勝: 南和田町会
- 第3位: 殿町会

- 令和7年度年間総合順位
- 第1位: 和田町会
- 第2位: 南和田町会
- (同率): 殿町会





◇国宝旧開智学校◇

この校舎は明治9年から昭和38年まで90年近くも使用されました



◇窪田空穂記念館◇

学芸員さんからの説明(生立ち・短歌等)を熱心に聴く参加者

松本市には博物館が16カ所あります。今回は窪田空穂記念館・時計博物館・松本市立博物館・国宝旧開智学校・考古博物館の5カ所を巡り、勾玉づくりも体験、古墳時代へタイムスリップ!

1/26 WADAチャレンジャー まつもと博物館めぐり



◇中山道四十三番目の宿場町 馬籠宿◇
石畳の坂道 ノスタルジックな雰囲気が漂う



◇中山道四十二番目の宿場町 妻籠宿◇
脇本陣奥谷で囲炉裏を囲み説明を受ける参加者

梅の花が咲き始め、春の気配を感じる穏やかな日、江戸幕府が整備した五街道のひとつ、中山道の宿場町、馬籠宿・妻籠宿を巡りました。当時の風情が見事に保存されており、江戸文化の香りを感じた春昼でした。

3/6 文化財臨地学習開催 馬籠宿・妻籠宿を巡る

2/28

楽団ケ・セラコンサート開催



NHK朝ドラ『おひさま』をはじめ全17曲を熱演[Y・M・C・A]では会場が大盛り上がり!(写真)



1/31 窪田空穂記念館冬季文化講座共催 冬どしし

あおぼし亭よし吉さんによる創作落語で大爆笑!笑門来福!



和田公民館・福祉ひろば・子ども会育成会共催 ファミリーコンサート

「ぱびるす」の皆さんによる演奏に感激、「アンコール!」の嵐

1/31

令和7年度末ダイジェスト



第3回健康スポーツのつどい冬季大会にて大会運営スタッフと選手で参加しました(写真審判)

和田公民館で 社会教育実習を体験して
約一年間、和田八公民館で実習をさせていただいて、職員さんの「こんな事をやりたい!やってみよう!」というチャレンジ精神と、進んで講座やイベントに参加して純粋に楽しむ和田の方々の暖かさが素敵だと思いきなり、和田のことが大好きになりました。実習先といふことで去年の夏に初めて和田を訪れましたが、はじめからとても気さくに話しかけてくださり、またコミュニティの中に入れてくださって、一年があつという間で何より楽しかったです。和田の全てに感謝です。本当にありがとうございます。 松本大学 荒井



◇館報編集委員会の皆さん◇
2年間ありがとうございました

館報に載せる原稿を書くにあたって三つの企画に参加しました。企画を考案開催するまで時間をかけて準備を進め、当日は裏方に徹して企画の進行に気を配っていたたく事は大変なご苦労だと思えます。そのおかげで参加者は楽しい時間を共有することができました。文章を書く機会が少なくなつて、いざ書こうとする漢字も覚束ない。いささか情けない。人とのふれあいは、心に優しさと温かさを運んでくれます。外に目を向けましょう。皆さんお疲れ様でした。 館報編集委員長 赤羽

編集後記 2年間を振り返って